

第2期高知市子ども・子育て支援事業計画
重点施策の今後の取組方針に対する評価とご意見等
(高知市子ども・子育て支援会議委員による評価)

評価	5	現在の取組を継続
	4	課題への対応を行い取組を継続
	3	既存事業の見直しや新たな取組が必要
	2	施策の方向性を見直しが必要
	1	施策自体の見直しが必要

【公開用】

重点施策① 「健やかな子どもの誕生への支援」 ☆評価（平均） 4. 1

ご意見等
<p>妊娠、出産、子育てと、長い期間、不安や喜びを抱えながら生活をしていく子育て家庭にとって、自分たちを支えてくれる人が身近にいない現状がある。子育て家庭において、心配なことや困り事は、解決する方法や場があることを認識してもらうことが大事になる。妊娠した母親が、まずはじめに、身近に感じる支援者は、母子保健コーディネーターではないかと思われる。子育て家庭を支援し、専門機関などに繋げていく母子保健コーディネーターが果たす役割は大きいと考えることから、会計年度の職員体制でなく、常勤の体制が望まれる。</p>
<p>母子健康手帳交付時の全妊婦との面接及び対応できている事を評価する。 惜しむらくは、対応するスタッフが正規雇用でないこと。この施策だけでなく、全体を通じて、事業の拡大や対応人員の増員が必要となると、非正規雇用での調整となっている。人材は市の財産である。安心して働ける環境ありきで対応を進めてほしい。 コロナの影響で、将来に向けた子どもたちの教育に制限ができてしまった事は、残念である。新年度一層のアプローチを期待したい。</p>
<p>母子健康手帳交付時の全妊婦さんとの面接や、長期的な取り組み、医療機関との連携を図るなど、妊産婦さんが安心して過ごせる支援を、引き続きお願いいたします。</p>
<p>令和4年4月には、4か所目の子育て世代包括支援センターを開設、母子保健コーディネーターの増員を図るなど、相談支援の更なる拡大を図るなど、体制強化に向けての積極的な姿勢がうかがえる。 母子健康手帳交付窓口の変更等により、面接率100%を達成したことは、評価できると考える。</p>
<p>男性に、育児参加と育児に対する不安解消のためにも、パパママ教室は大切だと思います。パパに、子育てするママの大変さを理解してもらうとともに、パパに、授乳やおむつ交換、離乳食の作り方、食べさせ方、子供の具合が悪いときの気づきや対応、保育園・幼稚園のことなど、パパとママと一緒に学ぶ機会、気軽に参加できる機会を、ぜひ増やしてあげてください。希望があれば、じいじ、ばあばも参加してもいいようにも思います。</p>
<p>妊婦支援の入り口である母子健康手帳交付時の面接率が、年々向上し100%に達したことは、関係機関の取り組みを大いに評価すべきことと存じます。 産婦健康診査の受診率も向上し、97%に達していることも評価に値する。しかし、受診に至っていない産婦が、少数ではあるが存在することは事実である。受診を妨げている障がいの分析を行い、その解消の取り組みを要望する。</p>
<p>子育て世代包括支援センターの増設および母子保健コーディネーターを増員し、母子健康手帳交付時の100%面接ができるようになったのは大いに評価します。また週1回の妊婦支援検討会で、情報や支援について共有・検討していることは、職員のスキルアップに繋がると思います。 一方で、潜在的に支援が必要な妊婦への支援も行っておられるようで、こちらは支援が困難な場合もあると推測しますが、部署全体で対応を継続して下さい。 産婦健康診査が適切に実施されていますが、フォローが適切に行われているか等の検証はできているでしょうか。 公的なサービスのみならず、民間の産後ケア施設の紹介等はできているでしょうか。</p>
<p>妊娠期からの切れ目のない支援として、母子健康手帳交付を包括支援センターに集約し、面接率100%達成は、非常に評価できる。更に施設とコーディネーターの充実と強化をお願いしたい。 産後ケアについても、受診率の向上やリスク評価や連携なども評価できる。</p>

【公開用】

妊娠期からの継続看護のあったケースの産婦健診フォローが、100%対応はすごいと思います。妊娠から出産、育児へと約1年位で、あっという間にお母さんの身体も心も急激に変化していきます。自分の事にかまっていられない生活、自分の事、赤ちゃんの事、家族の事、将来の事など、楽しみと思える時より、不安の方が多いと思います。そんなお母さんに寄り添って頂ける保健師さんやカウンセラーの方など、大変と思いますが頑張ってください。すごい頼りにしていると思います。

養育環境にリスクを持つ妊婦の情報収集と当該妊婦へのより手厚い支援を推進してほしい。

【公開用】

重点施策② 「より質の高い教育・保育の推進」 ☆評価（平均） 4.0

ご意見等

方向性の中に、「幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領に沿って、幼児期の教育・保育が行われるように取り組みます」と謳っているが、ここに係る事業があまり見えてこない。質の高い・教育・保育を推進していくためには、幼児期の教育・保育のあり方について、十分理解した上で保育に取り組んでいく必要がある。幼児だけでなく、乳幼児期の教育・保育の在り方に関わる事業について、県とも連携しながら取り組んで頂くことを期待する。

小学校との連携を進めていく上でも、乳幼児期に身に付けておくことが望まれる、資質・能力が育まれるよう、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが求められる。このことから、県とも連携しながら、保育に関わる研修の事業が望まれる。

長引くコロナ禍において、社会全体が疲弊している中、子どもたちが関わる事故や痛ましい事件があった。事故については、「人」同士のやりとりには、エラーがつきものということ踏まえ、ヒューマンファクターを理解し、ヒューマンエラーを防止する方法の周知をお願いする。

また、研修を受けた人だけでなく、多くの人を知る仕組みが必要。好事例の共有とともに、現場で働くスタッフの心身の状態把握とフォロー体制の支援もお願いしたい。

全国的に不適切保育の事例がマスコミを通じて流されている。

保育は指導を伴う為、非常に微妙な場面に出合う事もあるが、全国の具体的事例を検証しながら勉強をし合うような研修を、行政の方でセットして頂きたい。

テレビや新聞で、保育士や教職員等の不適切な行動のニュースを目にする度に、胸がしめつけられる思いがしています。保育、保育士の質の確保や向上はもちろん大切なことだと自覚しております。現場の保育士たちも精一杯頑張っているのですが、人員不足等の一刻も早い対策を望みます。

保幼小中の連携は、積極的に取り組んでいると思います。

保育の充実、質的向上において職員の専門性の向上は不可欠であり、コロナ禍で制限等があった研修等への参加も、拡大を図っていくことを期待する。

保幼小連携の取り組みも継続して行われており、定着した印象がある。

県の少子化対策会議の場（市長参加）で、市長も、0歳から2歳児の保育料の無料化を、国に要望するように知事に言われていました。私も賛同して政府がいう異次元の対策ではないかもしれませんが、若いパパママで収入が少ない時期だからこそ、夫婦で働かないといけないので、ぜひ無償化を強く要望してほしいと発言させていただきました。高知市は2人目は無償化されていますが、国の予算がつかましたら、ぜひ1番先に取り組んでいただきたいと思います。

相当わがままだとは思いますが、病児保育の充実もお願いしました。保育へ預けても、少し熱がある、下痢していると、お迎えコールが仕事中のパパママに要請されています。そんな時に、症状をみて軽いものであれば、対処してくれる保健師や看護師の配置や、近くの病院とタイアップして保育士が連れていってくれたらとても助かると思います。

最後に、保育園や幼稚園で、保育士による信じられないような行為が報道されています。保育士の人としての研修の充実と、運営責任者の自覚と責任の向上を促す研修を充実してください。

最近、不適切な保育の実態（事故、事件）を、メディア等を通して目にする事が多い。不適切な保育に至る要因として、保育者一人当たりが

【公開用】

<p>受け持つ児童数の多さが挙げられている。本市の実態の把握、基準の改訂等を図り、保育環境の改善を推進することを要望する。</p>
<p>困難家庭の情報収集し、巡回相談をしっかりと利用することはできていますか。巡回相談内容を、多施設間で可能な範囲で共有し、有効活用することはいかがでしょうか。</p> <p>研修会をハイブリッド開催するなど参加しやすい工夫も検討ください。</p> <p>適切な保育を確保するために、高知市としても国の定員基準の緩和を求める必要があるのではないのでしょうか。</p>
<p>保育士の不足により、加配保育士の配置ができないことや、低年齢児の入所に必要な職員配置の確保などに影響があることが気になります。保育士不足解消の手だてが必要だと感じます。</p>
<p>より質の高い教育・保育の推進は、とても重要な事であるが、コロナ禍で幼児教育に携わる教職員・保育士等の皆様は、必要以上に雑用が増加しているように思われます。研修については、リモート等で出来る様になれば、良いのではないかと思います。</p>
<p>待機児童もずいぶん減ってきた事が嬉しい事とは思いますが。乳児の受入の拡大を望まれる人も多いでしょう。働かなくてはいけない人も多くなってきたとはいえ、何時間も保育園に預けられているのはかわいそうな思いがして、子どもの小さい時はなんとか、一緒にいれる様に支援があるといいなと思います。</p> <p>保育士不足も問題で、保育士が増えてくれる様な対応、支援お願いしたいです。</p> <p>他県のニュースなどで子どもへ不適切な対応、教育は、親としては許せません。園バスでの事故も、人手不足とはいえ悲しい事故でした。高知はもちろんのこと、これ以上何も起こらないでほしいと願っています。</p>
<p>保育者は、子どもの健やかな成長に寄与することを目的にしていることを、常に認識して、資質の向上を図ることを再確認すべきであり、単なる教育・保育スキルのアップに終わることなく、保護者との連携を密にし、保護者の立場を理解し共感することに務め、共に育つ意識を持てるような施策を進めることを大切にしてほしい。</p>

【公開用】

重点施策③ 「地域ぐるみの見守り・子育て支援体制の充実」 ☆評価（平均） 4. 1

ご意見等
<p>就園をしていない子どものいる家庭にとって、地域子育て支援センターは、安心して子どもや保護者をつなげてもらえる親子の集いの場になっている。親子が行きたいと思う地域子育て支援センターの充実をお願いしたい。</p> <p>地域で子育て家庭を支え合う取り組みは、園や地域子育て支援センターだけでなく、地域の特性を活かした取り組みが望まれる。全国の中で先進的に取り組んでいる地域における居場所づくりや、支え合いができる取り組みなどについて学び、取り入れて頂くことを期待する。</p>
<p>コロナ禍における制限の多い中、その時々で出来る事や対応を工夫して行ったところなど評価する。</p> <p>子育てサークルや子育て支援サークル活動への活動場所の支援は有難い。プラスで継続支援があれば良いのではないかと。</p>
<p>乳児家庭全戸訪問事業について、実施率は95.2%であるが、残りの5%のうち、一度も連絡が取れない家庭数と、その家族への今後の取り組みについて、会の時にお伺いしたい。</p>
<p>長く続いたコロナ禍により制限されることも多く、これからいかに、元のような地域とのつながりが持てるようにしていくか、工夫が必要になると思います。（コミュニケーションの取り方等）</p>
<p>コロナ禍により交流の場が制限されたことで、支援を要する子育て家庭の把握が困難であったと推察する。社会生活が回復していく中で、施設の増設置等も生かして施策の効果を期待したい。</p>
<p>様々な取り組みを工夫されて実施されています。少し気になるのは、重点項目が異なるのに事業名の再掲が目立ちますし、事業概要からすべて丸写しになっています。重点項目の達成にあった事業概要に、工夫すべきではないかと思えます。それか、その事業が最も求める目的にあった項目のみに記載するなど、ひとつの事業を使いまわすのはどうかと思えます。</p>
<p>子育てに関する相談内容や量的傾向に、年経過に伴って変化していることが資料から伺える。子育て支援の体制や支援の内容は、子育て不安の解消に対応する必要がある。そのことから、子育て家庭の状況や、取り巻く環境を正確に把握する体制整備を図ることを要望する。</p>
<p>コロナ感染症の流行期間中も緊急事態宣言等が出ていない時に、地域子育て支援センターの面接による個別相談を継続されたのは良かったと思います。</p> <p>地域子育て支援センターが、栄養、育児、就園などの相談場所として、大切な役割を果たしていることが分かりました。</p> <p>母子健康手帳交付時面接の際に、高知市が作成したアプリ利用を勧めるなど、子育てに関する情報発信にICTの活用を推進するのはどうでしょうか。</p>
<p>地域子育て支援センターや、ほおっちょけん相談窓口の設置など、子育て世帯が相談できる場所が増えることは、とても良いと思います。</p>
<p>コロナが色々な孤立を増やしてきたかもしれないですが、改めて色々な対策、施策が検討されていることと思えます。やっと色々な所へ活動的に出ていける様になってきたので、地域でも見守りがしやすくなるのではと思う反面、新しい生活様式についていけなかったり、各家庭での問題がいくつもあつたりする事で、子どもたちの心の中に、たくさんのストレスが抱えられているのではと心配であります。親子で楽しめる子育てサロンや子どもの居場所づくりなど、地域にあると気楽に相談や発見につながるのであれば、ボランティアなどで協力したいと思います。</p>
<p>具体的な支援・援助の周知と丁寧な聞き取りを大切にしてほしい。そして、保護者のニーズを的確に把握し対応することを今後も大切にして事業を推進して欲しい。</p>

【公開用】

重点施策④ 「児童虐待の発生予防」 ☆評価（平均） 4.0

ご意見等
子どもの命や人格を守るためには、虐待予防の視点が重要であると考え。福祉部局だけでなく、多様な部局と連携して取り組むことが望まれる。
コロナ禍のなか、乳児家庭全戸訪問事業 95.2%の訪問率を評価する。訪問できなかった家庭の情報把握も継続していただきたい。 子育て相談の各所に相談しても伝わっていない話も聞く。子育て相談の対象者は、うまくいかない事への不安、罪悪感、自責の念などから、表現表出が偏る可能性が高いことが考えられる。相談が複数回及び複数ヶ所におよぶケースは、要支援家庭として報告、対応するよう、窓口を含め周知していただきたい。
ヤングケアラー把握についても、地域、学校、医療機関、介護関係への周知と連携をお願いする。
ヤングケアラー＝児童虐待という印象にならないように、社会に周知していけたらいいと思いました。
本当に支援を要する、孤立した子育て家庭の”発掘”と、関わりが難しい部分であると考え。地域住民からの間接的な情報等が重要であり、広報活動等の継続実施が大切と考える。
重点施策③よりもっとひどくてほとんどの事業が使いまわしです。児童虐待防止という重要な施策ですので、この施策に特化した、何かインパクトの強い事業がもう少しあっても良いと思います。他の事業の使いまわしであると、副次的な効果しか期待できないように思います。
虐待による不幸な子どもの出現が後を絶たない。その原因の一つとして、課題を抱える家庭の見守りに、死角が生じていることが考えられる。多機関の連携を図り、多方向からの見守りを実現することを要望する。
要保護児童や困難家庭について、適切に支援できているでしょうか。
民間の産後ケア施設でショートステイ、トワイライトステイをしており、保護者の満足度が高いという情報を得たが、そのような施設の情報提供もされているのでしょうか。
コロナ感染対策の対応で制限のある生活により、児童虐待の発生が多くなったと言われています。色々な制限がなくなる事で、更なるストレスが生まれ、虐待発生はあまり減っていかないのでは、と思います。地域や学校などで発見する事も大切ですが、事前に防げる様に、親に対しての学習、研修なども開かれていくといいと思います。
情報収集を重点活動としてより手厚い支援へとつなげる事業展開を望む。

【公開用】

重点施策⑤ 「障害児支援の充実」 ☆評価（平均） 4. 2

ご意見等
一人ひとりの子どもが、自分らしく生き生きと生活や活動に取り組むことができるよう、きめ細かい支援を行って頂けることを望む。
子ども発達支援センターから児童発達支援サービスにつながるケースが増えていることを評価する。 サポートファイルの活用方法について、手軽に利用するための工夫は継続して対応していく必要あり。 相談窓口について、「こんな時、どこに相談すればよいか」というフローチャートなどがあれば、医療機関やHPなどでアピールしていただきたい。無ければ作成検討をお願いする。
配慮の必要な子どもの割合が6.5%から8.8%になったと国が発表した。本市では保育所にこのような子どもに対応する為D配置保育士が配置できるが、保育士不足によりなかなか実際には配置できない園も多い。それに対する考え方をお聞かせ願いたい。
近年、就業前相談や園訪問等連携する機会が増え、引き継ぎがスムーズになってきていると感じます。
子どもの発達の各段階において関わりを持つ者や接する者による観察が、子どもの特性の発見から必要な支援へとつながる。関係する機関が連携して、成長に即して適切な支援を継続する体制の充実への動きがうかがえる。
なんらかの障がいのある子どもの支援はご苦労も多いと思いますが、その子の親も大変だと思いますので皆で支援していきましょう。引き続きよろしくお願ひします。
障がいの有る無しに関わらず、子どもの保育・教育においては、一人ひとりの特性に応じた教育・支援が基本である。しかし、各保育・教育機関においては、支援者の人数が、特性の多様さに応じきれていない現状があると認識している。特性の多様化に応じた支援者の確保と配置を要望する。
幼児健診時の発達チェックのみでは、その場に慣れない児の評価が難しいので、保育園での状況・情報を捉えた上で、健診時に心理士による発達チェックをしていただくと、効率よいフォローが可能となるのではないのでしょうか。 発達障害児への対応は、保育園などへの巡回相談等で行われていますか。 不登校生徒の居場所づくりは、高知市教育研究所が十分に機能していますか。学校内の居場所づくりも進んでいますか。 特別支援学級教師への研修は行われていますが、個別事例への相談体制は機能していますか。 医療的ケア児への支援については、「きぼうのわ」も利用して個別のケースについて支援体制を整え、その経験を蓄積して下さい。
新型コロナの影響もあると思いますが、保護者から、未就学児の日中一時支援や短期入所の受入れ先がないとの訴えがありました。 サポートファイルの所持率が低いのに、実際に使用している保護者はさらに少ないと思います。実用性のある使い易い形を考える必要があると思います。
発達障害という言葉をよく耳にする様になり、共生していく時代となりました。一人一人の個性を生かしながら、子どもがのびのびと成長していける様に、担当課の方の対策など大変と思います。まだまだ、発達障害の疑いのある子どもに対して、親や周りの大人の受け入れ方、対応の仕方が進んでないのかもしれないと思います。世間全体で発達障害だけでなく、色々な障がいに対して理解して共生できる様になってほしいです。
障がいは個性であり、失われた機能を求めるのではなく、残された機能を最大限に生かすことの周知と、保護者が障がいを受容できるように手助けを行うことで、子育て・養育への希望と目標が持てると思う。このことが、常に含まれている事業展開を望む。